

消化器内科

国立病院機構千葉医療センター消化器内科では、肝、胆、膵疾患および上部・下部消化管疾患などあらゆる消化器疾患に対応しており、患者の立場を重視した患者中心の総合的なチーム診療をこころがけ、科学的根拠に基づく各学会の診療ガイドラインに沿った診療を目指しています。

当院では、消化器領域の多彩な疾患を幅広く経験することができます。また千葉大学医学部附属病院の消化器内科とも密接に連携しており、高度な治療も含め患者に最善の医療を提供できるよう診療を行っています。

研修医の疑問点や要望に対しては、スタッフのだれもがいつでも気軽に相談に乗り、時にはスタッフみんなで話し合いをしながら最適な解答を見つけられるように研修医をサポートしています。

1. 認定施設

- 1) 日本内科学会認定教育病院
- 2) 日本消化器病学会認定施設
- 3) 日本肝臓学会認定施設
- 4) 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- 5) 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

2. 診療内容

当院では、上部・下部消化管内視鏡、超音波内視鏡、腹部超音波、CT、MRI、血管造影装置といった基本的な機器はそろっており、基本的な手技は十分に会得できると思います。また消化管出血や急性閉塞性胆管炎など腹部の救急疾患にも、スタッフのオンコール制を敷いて随時対応しています。

1) 上部消化管内視鏡

食道・胃・十二指腸スクリーニング検査
内視鏡的ポリープ切除術・内視鏡的粘膜切除術（EMR）
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
内視鏡的止血術
食道・胃静脈瘤に対する内視鏡的治療（EVL、EIS） など

2) 下部消化管内視鏡

全大腸スクリーニング検査
内視鏡的ポリープ切除術・内視鏡的粘膜切除術（EMR）
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
内視鏡的止血術 など

3) 胆膵内視鏡

内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP)

内視鏡的乳頭切開術 (EST)、内視鏡的乳頭拡張術 (EPBD)

内視鏡的胆管ステント留置術 (EBS)

内視鏡的胆管結石除去術 など

4) 超音波内視鏡

胆道疾患・膵疾患・消化管粘膜下腫瘍の精査

超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNA)

超音波内視鏡下ドレナージ など

5) 腹部超音波

肝・胆・膵・腎など腹部臓器のスクリーニング検査

超音波造影剤 (ソナゾイド) を用いた造影超音波検査

超音波を用いた観血的検査・治療

経皮経肝胆道ドレナージ (PTBD)、経皮的胆嚢ドレナージ (PTGBD)

肝膿瘍穿刺・ドレナージ (PTAD)、肝生検、肝腫瘍生検

ラジオ波焼灼術 (RFA)、エタノール注入療法 (PEI) など

6) レントゲン部門

腹部血管造影検査、経カテーテル的肝動脈塞栓術 (TAE)、B-RTO など

イレウス管挿入・消化管ステント留置術

上部・下部消化管造影検査

3. 初期研修プログラム

当院消化器科の初期研修では、救急患者や入院患者の診療を通していろいろな消化器疾患の病態生理とその治療法について知識を深めていただくとともに、腹部超音波検査や消化器内視鏡検査など消化器診療の基本的手技を身につけ、将来消化器病学における幅広い知識と技能を有し質の高い医療が実践できる専門医となっていけるように、その土台作りをサポートしたいと考えています。

消化器科初期研修

(1～2 か月のコース)

救急外来および病棟診療

- ・担当医として入院患者を受け持ち、主治医であるスタッフの指導の下で、受け持った入院患者の診療にあたる。
- ・救急患者や受け持ちの入院患者の診療について自分でまず検査、治療の計画を立案し、その後、主治医や常勤スタッフの助言を受けつつ診療にあたる。

超音波を使用する手技

- ・まずはスクリーニング検査を見学し検査の概要を把握する。
- ・その後常勤スタッフの指導のもとでスクリーニング検査のトレーニングを行う。

内視鏡を使用する手技

- ・上部消化管スクリーニング検査を見学し検査の概要を把握する。
- ・洗浄、消毒法を習得する。
- ・模型を用いて上部消化管内視鏡の操作法をトレーニングする。
- ・ERCP 関連の検査や治療の助手として立ち会いながら、カテーテルおよびガイドワイヤー操作を勉強する。

放射線を使用する手技

- ・腹部血管造影検査、イレウス管挿入を見学する。あるいは助手として立ち会いながら、カテーテルやガイドワイヤー操作を勉強する。
- ・上部消化管造影検査、注腸検査は機会があれば見学する。あるいは検査に立ち会う。

(3 か月以上のコース)

救急外来および病棟診療

- ・担当医として入院患者を受け持ち、主治医であるスタッフの指導の下で、受け持った入院患者の診療にあたる。
- ・救急患者や受け持ちの入院患者の診療について自分でまず検査、治療の計画を立案し、その後、主治医や常勤スタッフの助言を受けつつ診療にあたる。

超音波を使用する手技

- ・まずはスクリーニング検査を見学し検査の概要を把握する。
- ・その後常勤スタッフの指導のもとでスクリーニング検査のトレーニングを行う。
- ・手技に慣れてくれば、更には超音波を用いた観血的検査や治療のトレーニングも行う。

内視鏡を使用する手技

- ・上部消化管スクリーニング検査を見学し検査の概要を把握する。
- ・洗浄、消毒法を習得する。
- ・模型を用いて上部消化管内視鏡の操作法をトレーニングする。
- ・ERCP 関連の検査や治療の助手として立ち会いながら、カテーテルおよびガイドワイヤー操作を勉強する。
- ・常勤スタッフの指導のもと、まず引き抜き操作を行いながら実際の上部消化管内視鏡操作法を習得する。操作に慣れてくれば自分で食道へ挿入するトレーニングも行う。
- ・上部消化管内視鏡操作に慣れれば ERCP や大腸内視鏡検査のトレーニングや、更には比較的容易な内視鏡治療に挑戦することも可能。

放射線を使用する手技

- ・腹部血管造影検査、イレウス管挿入を見学する。あるいは助手として立ち会いながら、カテーテルやガイドワイヤー操作を勉強する。

- ・ 操作に慣れてくれば、常勤スタッフの介助を受けながら、腹部血管造影検査やイレウス管挿入の術者となって手技を習得する。
- ・ 上部消化管造影検査、注腸検査は機会があれば見学する。あるいは検査に立ち会い常勤スタッフと共に検査を行う。